

序章	近代日本の空間編成史の試み	中川理
----	---------------	-----

第Ⅰ部 切断か継続か

第1章	東京市区改正計画の具体化に関する一考察	松山恵
第2章	開港地建築家ブリジェンスの足跡	大田省一

第Ⅱ部 併存する統治

第3章	「軍都」の形成と都市基盤 ——第九師団管下金沢の事例を中心に——	本康宏史
第4章	神戸背山の開発と風致保護 ——部落有林野の解体と山地の近代化——	山口敬太
第5章	財閥組織と都市経営——三菱財閥の「丸の内」——	野村正晴

第Ⅲ部 統制的システムの構築

第6章	基盤編成の一九三〇年代 ——昭和恐慌下の三陸漁村と津波復興——	青井哲人 岡村健太郎 石樽督和
第7章	戦時下広畑一帯の工業開発と新興工業都市計画	中野茂夫

第8章	植民地期「京城」の工業都市化と都市計画……………	石田潤一郎 金珠也	279
-----	--------------------------	--------------	-----

第Ⅳ部 システムの内と外

第9章	近代都市計画の技術的基盤 ——土木技師・梶山浅次郎にみるその体现——……………	木方十根 味園将矢	325
-----	--	--------------	-----

第10章	朝鮮巨大電源開発の系譜——大井川から赴戦江へ——……………	谷川竜一	369
第11章	郊外住宅地開発に見られた方位観と寺院の誘致……………	中川理	403

第Ⅴ部 非公共の回収

第12章	植民地朝鮮の公設洗濯場の施設計画をめぐる……………	砂本文彦	429
第13章	帝都における風致地区……………	丸山宏	461
第14章	風景の「近代化」——瀬戸内海風景の発見と創建——……………	小野芳朗	493

あとがき

索引（人名・事項）

執筆者紹介

序章 近代日本の空間編成史の試み

中川 理

はじめに

本書はこの序章を除いて一四編の論文を収めた論文集の型式になっている。扱っている対象は、市区改正、軍都、災害復興、風景・風致、土木技術、さらには洗濯場など、日本近代における空間編成に関わるという枠組みはあるものの、実に多彩である。しかし、これらの論考は、一つのテーマにそった議論の上で成立したものであり、問題意識を共有しているといってもよい。最初にその共有されている研究課題について述べておこう。

それは、一つの研究会での議論で展開されたものである。二〇一一年四月から、中川が研究代表者となり、文部科学省科学研究費の助成を受けて、都市基盤史研究会がスタートした。これは、日本の近代化のなかで構築されてきた都市基盤（インフラストラクチャー）を扱いながら、それらと制度や政治、あるいは共同体などとの関係・影響を考究し、それにより日本近代の空間の変容の実相を捉えようとするものであった。

ここという都市基盤は、道路、橋梁、公園などの構築物（モノ）だけではなく、それらが建設される事業、とりわけ市区改正・都市計画などにより計画的に実施されるさまざまな事業を含んでいる。それは土木事業として

括られるものだが、日本の近代化過程のなかで、最も重要な意味を持っていたはずである。単純にいつても、戦前の日本の地方財政のなかでは、最も出費されたのがそうした土木事業であった。

もちろん、近代日本における土木事業の歴史については、建築学や土木工学の分野でこれまで多くの研究実績がある。とりわけ、市区改正や都市計画の事業については、それを規定した制度、あるいは実際に担った技術者、そして事業そのものの内容についても、きわめて多くのことが解明されてきた。その成果は、本書の該当する論文でそれぞれ指摘されているので、ここでは触れないが、しかしそこには一つの特徴を指摘できる。それは、それらが事業史としての枠組みに閉じる傾向にあることである。個別の事業について緻密に解明しながらも、その事業そのものが日本近代の歴史全体に持ち得た意味や、そこからの影響について問うことが少ないのである。厳しくいえば、それは歴史研究に対する方法論の無自覚さが露呈しているという指摘もできるだろう。

われわれの研究は、そうした認識を前提に始まった。つまり、事業ごとに個別に行われたともいえる都市基盤の事業史の解明を、日本の近代化過程という歴史全体の中で議論できないだろうか。そして、それらを総合して日本近代の空間が改めて編成していく過程を明らかにする。そのことが研究会のテーマとなっていたのである。当然ながら、そうした議論においては、制度史や政治史における議論やその成果を参照することが求められる。これも各章において具体的に示されるので省くが、実際にこの研究会での議論においては、きわめて多くの歴史学（文献史学）による成果が参照されることになった。

歴史学（文献史学）においても、近年都市の近代史を扱った研究が、方法論の確立や新たな概念規定などともなつて実績をあげつつある。とりわけ、土木事業が展開される地方政治をめぐる制度史や政治過程史については、精力的な研究が続けられている。このことは、われわれの研究を始動させるモチベーションにもなつていたといえるだろう。とりわけ、中川と、科研費の分担者としてこの研究会を共同で主導した丸山宏、石田潤一郎、

小野芳朗らは、京都大学人文科学研究所の近代京都研究班、近代古都研究班などで、歴史学系の研究者との議論を続けてきたという経緯がある⁽¹⁾。

ところで、都市基盤史研究会としてスタートした研究会の成果である本書が、なぜその名称をタイトルに使っていないのだろうか。まず、個別の事業史ではなく土木事業の全体像を捉えようとする、必ずしも「都市」における事業だけでは十分な議論にならないことが明らかになったことがある。とりわけ、時代が下がると、事業の計画対象は、しだいに都市ではなく国土に拡大されていくことになる。したがって、都市の課題としてだけで土木事業を捉えることはできないという認識にいたったのである。

そして、さらに重要なことは、研究のテーマそのものが、事業史だけでなくってしまったことである。土木事業を日本の近代史に位置づけることを目指した議論のなかで、しだいに了解されていったのは、政治史、とりわけ地方政治の政治過程との間に介在する関係の重要性であった。そこには、さまざまな組織や集団が登場し、多様な社会関係が見いだされることになる。実は、その関係性の解明こそが、この研究会の最も重要な研究課題となったといえるのである。以下の論文においても、そのことは通底している。事業を実施する主体と、それを受容する住民、という単純な構造では見えてこない多様な人々が多様な役割で登場してくる。そこに本書が掲げるテーマの最大の特徴を見いだすことができるだろう。

その意味から、本書は書名に空間編成という言葉を選んでいる。空間の歴史的な変容を扱う本書の内容からすれば、本来であれば空間変容や空間変遷というタイトルが考えられるだろうが、単に変容する姿ではなく、それが政治的状況や地域共同体とどのような関係を構築していったのがテーマになっている。そこで、個々の要素を集めて組織することを意味する「編成」という言葉をあえてあてることとしたのである。かつて、マルクス主義を地理学に応用したデヴィッド・ハーヴェイが、資本主義経済により表れる事態を Spatial Configuration とし

て理解し、その訳語に「空間編成」が使われたが、本書も同様に、近代化により組織され関係を構築していく空間の状況を明らかにするという意味で、空間編成という言葉を選んだ。

では、実際に日本近代における空間再編に、どのような社会関係が見いだされたのか。そのことを以下に、本書全体の構成にしたがってあらかじめ示しておこう。ただし、ここでは、あくまで中川が構想した全体の構成のなかで各章が持つ意味を示しているだけである。それぞれの章では、そこに含まれない他の重要な論点が提示されているものも多い。それでも、本書全体でどのような議論が構築されているのかを最初に提示しておくことは、本書がひとつの課題意識を共有されたものであることを示すためには重要であると考ええる。

第一節 切断か継続か

近代都市史研究において最も重要なテーマの一つが、近世社会からの切断か継続かという問いである。確かに、近代化とは国民国家の成立、資本主義の確立とともに、都市への公権力の介入が著しく進む時代である。したがって、都市空間の統治の仕組みは近世までのそれと根本的に異なるものとなる。そのため、これまでの近代都市における歴史を扱った論考では、近世までの伝統やそれによる影響について言及していないものが多い。とりわけ、建築史からアプローチした都市史研究においてはその傾向が著しい。近代都市について、もっぱらその新しく登場する空間や仕組みにだけ注目しようとしてきたのである。

しかし、統治する公権力の政治過程そのものは、近世からまったく断絶されたものではありえない。歴史学において近代都市の政治過程史を論じたパイオニアの一人である原田敬一も、明治期以降の日本の都市支配について何を対象として分析すべきかという問いに対して、近世との連続性こそを検討すべきであると指摘している⁽³⁾。また、経済史の高嶋修一が指摘するように、近年のさまざまな政治史・経済史の論考においても、近代社会の合

理的秩序により解消されるとされてきた伝統社会の要素は、近代社会のなかでも一定の場所に定位してきたとする議論が提示されるようになってきている。⁽⁴⁾

そして何より、支配権力内部ではなく、それが及ぶところの実際の空間や場所、土地に着目して見ると、そこにはさまざまな伝統社会を引き継いだ、あるいはそれを再編した要素を担う社会集団の存在が認められるのである。近世都市において、そうした土地に由来する共同体や身分を基盤とする社会集団が、都市空間との間に作り出す関係構造の解明をテーマとしてきたのが、吉田伸之（歴史学）や伊藤毅（建築史学）らによる一連の研究である。⁽⁵⁾ 近代都市においては、そうした社会集団とそこでの秩序が近代的・合理的な秩序に包摂されていくことになるわけだが、そこに見られる過程を明らかにすることこそが、近世都市との連続として近代化を捉える視角を獲得することになるはずなのである。

近年の近代都市史研究においては、吉田らの研究視点を延長する形で、近世から近代への移行期における社会構造と空間構造の関係の展開を扱うものも出てきているが、重要なことは、その特定の場所・集団における展開と、都市全体に及び集権化していく都市支配のあり方にどのような関係がありえたのかを明らかにすることである。その点において、近年確かな成果をあげたと思われるのが、松山恵の研究である。⁽⁷⁾ そこでは、まさに土地や場所に展開される動向から、近世から近代への移行期における空間の支配構造の変容を、大きな枠組みで捉えようとしている。

松山による本書の第1章「東京市区改正計画の具体化に関する一考察」は、その成果の延長として、明治期の東京で実施された市区改正事業の具体化の時点における執行者と地権者の動向に着目したものである。ここでは、計画の執行が必ずしも一方的なものではなく、住民や地権者の介入が多分に見られたことを明らかにしている。そして何よりも注目しなくてはならないことは、事業が進む過程で、その執行の効率化をはかるために、土地や

建物に対する評価が建築物の物理的な指標だけに限定されるということが起こったことである。つまり、それまでありえた立地の良さや営業権など、建物に付随する評価・価値が排除されていくのである。これは、近世から続く地権者が持ち得た建築をめぐる多様な権利がどのように排除されていくかを示しており、さらにその後の都市空間に成立する経済合理性にもとづく不動産価値の評価システムを導く最初の契機となったと考えられるものである。

これまでの近代都市史に関わる建築史学からアプローチでは、もっぱら都市計画事業やその制度がどのように計画されたものであるのかを明らかにしてきた。しかし、このようにその事業・制度が執行される際の現場である土地や場所の動向に着目することで、近代社会の合理的秩序に包含できない要素や価値がしだいに排除される事態を明らかにすることができる。そして重要なのは、その排除が公権力により一方的に行われるのではなく、地権者や地域・同業者などの共同体の意思も強く介在する形で形成される新たな秩序により起こることである。それは、排除される側に形成されてきた何らかの自立的な改編能力を示すものだともいえるだろう。

中川も京都の近代化過程を扱った『京都と近代——せめぎあう都市空間の歴史——』のなかで、古くからの地権者を中心とした伝統的な地域共同体が都市空間の形成・変容に介在していくようすを明らかにした。⁽⁸⁾ただし、主にその対象としたのは東京の市区改正事業より遅れる明治末からの都市改造事業である。そこでは、すでに地方制度において近代的制度が十分ではないにせよ整備されていたために、伝統的な統治や権利の介在は限定的で、むしろそれが形を変えて再興するような場面が見られたのである。

そうした伝統的要素が都市基盤整備の事業に介在していくようすは、都市計画法が一九一九年（大正八）に制定され、事業が集権化された体制で進むようになって、形を変えて観察できることである。それについては、実際に本書の他の論考でもたびたびうかがうことができるのであり、のちに改めて考えることとする。

その前にここで検証しておかなければならないのは、松山が論じた近世から近代への移行期における伝統的要素の内実についてである。建物や土地の評価・価値は重要であるが、それだけではない。空間を支配する仕組みや、さらにいえば土地や地域を価値づける世界観のようなものも、近世から継続されていたものがあつたはずであり、それが近代化のなかで、どう評価されていたのかを明らかにする必要がある。

その点において注目したいのは、松山も『江戸・東京の都市史』で、神社遙拝所の検証で示した興行的な空間である。山師的な人物が暗躍するその世界は、明らかに近代の秩序空間からは排除の対象となっていくのだが、近代の初頭には一定の意味と役割を持ったと考えられるのである。こうした空間は東京だけでなく、明治初期の日本の都市で共通して見られたものである。

第2章の大田省一の論考「開港地建築家ブリジェンスの足跡」も、そうした世界について描いたものであるといえるだろう。ここでは、建築や土木の技術がわが国に定着する以前の段階で活躍したアメリカ人建築家・ブリジェンスに注目している。ブリジェンスは新橋・横浜停車場、横浜イギリス公使館などをはじめ多くの建築設計を手がけ、その後の日本の近代建築に少なからず影響を与えた建築家だが、その出自や経歴などの詳細が不明な存在であつた。そして、その不明な部分を追っていくことで、なぜそのように埋もれた存在なのかがわかってくる。ブリジェンスは、カリブ海のプランテーション農園、新大陸アメリカ、ゴールドラッシュの西海岸を渡り歩いて、最後は日本にたどりついて設計活動をした人物だつた。大田が指摘するように、それは「冒険者の技術者」としての存在であつた。

ここで注目すべきは、彼がどのように建築設計の仕事を獲得していったのかである。近代の建築の教育や建設をめぐるさまざまな仕組みが確立される以前、建築もまさに興行的な世界で作られるものであつたのだ。ここでいう興行とは、大衆的娯楽を提供するという現代における狭義の興行ではない。興行師にあたる人物が手配する

ことで自立的に構築される場であり、さまざまな様態のものがありえた。ブリジエンスの活動は、その興行師の手配の下での振る舞いのようなものであったと考えられるのである。

近代移行期に見られた伝統的な社会の連続とは必ずしも人、あるいは世襲による継続を示すわけではなかった。少なくとも、この時期に一定の役割を持ったと考えられる興行的な世界においては、空間を作り上げるさまざまな関係の構造こそが維持されていたと見るべきなのであろう。だからこそ、海外から冒険者として入り込んだブリジエンスの活躍の場もそこにはあったのである。そして、合理的な秩序により排除されていたのは、その関係の構造であったと考えることができる。

第二節 併存する統治

では、伝統的な要素が排除される過程において、排除する側の公権力は誰であったのか。土地の流通や建物の建替、建設をめぐり、伝統的な要素は多様な価値・秩序として介在したのに対して、それを解体しあるいは排除しようとする主体も、当初は一元化できるものではなかった。この点も、都市基盤史研究会の重要な論点となった。実際に複数の統治権力が併存し、しかもそれらは相互に対立する場面すらありえたのである。

まず考える必要があるのが軍である。わが国の場合、伝統的な要素が排除され、空間が変容される母体となる都市空間とは、その多くが、城下町を前身とするものであった。統治権力は、その城下町の空間構造を前提としながら、それを近代的な構造に転換していくことに取り組むことになる。しかし、一方で、城郭廃棄令により城下町の中核にある城郭の多くが軍用地化され、さらに師団（陸軍）や鎮守府（海軍）が設置された都市では、近代都市でありながらも「軍都」としての転換が進むことになる。この場合、近代的空間への転用を進める統治権力が、地方行政（府県・市）と軍という複数併存する事態が生じることになる。

あとがき

本書は、二〇一一年度から五年間の科学研究費補助金の支援（課題番号は文末に表記）を受けて実施した都市基盤史研究会の成果を一四の章にまとめ著したものである。ただし、研究会で扱った内容は多岐にわたっており、本書はそのすべてを収録できているわけではない。

研究会では、わが国戦前期の都市基盤に関わる歴史的研究という広い括りで、さまざまな時代と場所での歴史的事象を扱っている多くの研究者に研究発表をしていただき、それをもとにメンバー間の議論を行った。研究会のメンバーは、科研費の研究分担者・連携研究者だけではなく、この研究課題に興味を持つ研究者・大学院生などにも広く参加してもらい、広範な議論になるよう心がけた。専門分野は、建築史・都市計画史が中心となっているが、土木史や造園史、歴史学、地理学などさまざまな領域の研究者にも参加いただいている。

本書は、その多様な議論のなかから、この研究会による新たな成果と考えられるものを中心にした論考を収めたものである。それは、序章でも述べたとおりで、都市だけでなく広く日本の空間が、近代化のなかでどのように編成されていくのか、その政治や技術に特に着目して明らかにしようとしたものであるといえるだろう。実際、そのことが研究会の議論の主軸になっていたのであるが、そこから派生して、庭園、公園、用水、温泉、観光などをめぐる実証的な研究の報告もあり、また都市の近代化過程に特徴を持つ、京城（ソウル）、名古屋、鹿児島、那覇・名護などには、現地に赴いて出張研究会も行った。

研究会の成果としてある本書でも、そうした多様な議論が行われたことを示すために、各研究会の内容を以下に記録しておきたい（発表者の所属は発表当時のものである）。

■ 第一回・二〇一一年六月二五日

中川理（京都工芸繊維大学）「都市基盤史研究を考える」

■ 第二回・二〇一一年九月一〇日

小野芳朗（京都工芸繊維大学）「琵琶湖疏水——用地買収と水力利用による空間形成——」

石田潤一郎（京都工芸繊維大学）「『京城』の工業都市化——永登浦地区の都市整備事業をとおして——」

■ 第三回・二〇一一年十一月二二日

丸山宏（名城大学）「近代造園の黎明」

木方十根（鹿児島大学）「土木技師・梶山浅次郎の業績と鹿児島市戦災復興都市計画」

■ エクスカーション研究会（ソウル市）・二〇一二年一月五日

砂本文彦（広島国際大学）「ソウルの都市と建築」

石田潤一郎（京都工芸繊維大学）「植民地期ソウルの法定都市計画」

金珠也（慶尚大学校）「韓国における住宅の近代化」

韓東洙（漢陽大学校）「韓国における近代建築史・都市史研究の動向」

■ 第四回・二〇一二年一月二二日

山口敬太（京都大学）「昭和初期の六甲山をめぐる開発と保護の顛末」

砂本文彦（広島国際大学）「近代朝鮮半島における「国際リゾート地」開発」

■ 第五回・二〇一二年三月一〇日

本康宏史（石川県立歴史博物館）「『軍都』の形成と都市基盤——第九師団管下金沢の事例を中心に——」

松山恵（明治大学）「東京市区改正事業に関する一考察——技術・空間・社会——」

■ 第六回・二〇一二年五月一二日

中野茂夫（島根大学）「島根の都市計画史——戦前戦後をつなぐ基盤整備——」

大田省一（京都工芸繊維大学）「アジア都市住宅と衛生」

■ 第七回・二〇一二年七月一四日

青井哲人（明治大学）「三陸漁村の基盤整備について——「漁村」の「漁港村」化——」

中川理（京都工芸繊維大学）「橋梁デザインに見る風致に対する二つの認識——京都・鴨川に架け替えられた四つの橋をめぐって——」

■第八回・二〇一二年九月一五日

堀田典裕（名古屋大学）「〈水〉と〈土〉のデザイン」

向口武志（名古屋市立大学）「戦前名古屋の公園・緑地計画」

■第九回・二〇一二年十一月一七日

真田純子（徳島大学）「戦前都市計画における都市の大きさに関する議論」

中嶋節子（京都大学）「近代における京都鴨東地区の産業と市街化の展開」

■第一〇回・二〇一三年一月一二日

野村正晴（神戸芸術工科大学）「財閥組織と都市経営——丸ノ内地区における三菱財閥の土地異動と街区形成について——」

金珠也（慶尚大学校）「植民時期大邱の都市再編」

■エクスカーション研究会（鹿児島市）・二〇一三年二月二二日

砂本文彦（広島国際大学）「廃仏毀釈による寺院空間の転用」

木方十根（鹿児島大学）「奄美諸島の近代化と建築・都市計画」

水田丞（広島大学）「薩摩藩集成館事業と鹿児島の近代化遺産」

■第一一回・二〇一三年三月九日

小野芳朗（京都工芸繊維大学）「近代御所用水の防火と水利——京都盆地の水は誰のものか——」

三宅拓也（京都工芸繊維大学）「近代日本の物産・商品陳列施設について」

■第一二回・二〇一三年五月一日

石田潤一郎（京都工芸繊維大学）「一九三〇年代後半以降の京城・仁川・京仁地域の工業化と都市計画の役割」

福嶋啓人（京都工芸繊維大学）「近代温泉地における湯の権利問題と空間について——加賀山中温泉・山代温泉を対象と

して——」

■ 第一三回・二〇一三年七月二三日

谷川竜一（京都大学）「日本の植民地都市から社会主義の都へ——二〇一三年平壤探訪から——」

松下迪生（京都工芸繊維大学）「植民地社会と顕彰空間——台南北白川宮能久親王御遺跡所の空間形成を中心として——」

■ 第一四回・二〇一三年九月二四日

清水重敦（京都工芸繊維大学）「社寺空間と近代京都——創建神社、古社寺保存、御所をめぐって——」

丸山宏（名城大学）「東京府風致協会聯合会機関誌『風致』について」

■ 第一五回・二〇一三年十一月一六日

加藤政洋（立命館大学）「近代都市と遊廓」

砂本文彦（広島国際大学）「米の記憶をたどる軍港都市呉の住宅地化——呉鎮守府水道並びに呉市水道布設に伴う旱害補償交渉を中心に——」

■ 第一六回・二〇一四年一月二一日

山口敬太（京都大学）「近代における古代の道の発見と景観創出——奈良・山辺の道の形成史——」

大田省一（京都工芸繊維大学）「リチャード・パークンス・ブリジェンスについて」

■ エクスカーション研究会（那覇市）・二〇一四年二月二二日

加藤政洋（立命館大学）「戦後那覇の都市形成と「空間の政治」」

小野尋子（琉球大学）「沖縄の歴史的な民俗空間を戦後の社会基盤整備の中で位置づけ、継承するための諸課題」

■ 第一七回・二〇一四年五月一〇日

村上しほり（人と防災未来センター）「占領下日本の都市空間——神戸・ヤミ市の生成と展開に着目して——」

堀田典裕（名古屋大学）「山林都市の思想とその展開」

■ 第一八回・二〇一四年七月五日

小野芳朗「大名庭園の近世と近代——〈好み〉から〈規格〉へ——岡山後楽園」

本康宏史「大名庭園の近世と近代——〈好み〉から〈規格〉へ——金沢兼六園」

■ 第一九回・二〇一四年九月六日

中江研（神戸大学）「日本毛織の社宅街開発と田園都市論」

中野茂夫（島根大学）「日立製作所の工業都市計画と近隣住区論」

■ 第二〇回・二〇一四年二月八日

松山恵（明治大学）「日本近代都市史——過去、現在、そして未来——」

中川理（京都工芸繊維大学）「わが国近代都市空間史の転換点試論——京都から考える——」

■ 第二一回・二〇一五年二月二八日

川口朋子（京都府立総合資料館）「建物疎開と都市防空をめぐる」

江口久美（京都大学）「パリの歴史的建造物保存と都市計画をめぐる」

■ 第二二回・二〇一五年七月二五日

黄蘭翔（台湾大学）「韓国の宗廟建築と成均館——東アジア文化圏における位置づけ——」

■ 第二三回・二〇一六年二月二四日

青井哲人（明治大学）・岡村健太郎（東京大学）・石博智和（明治大学）「三陸漁村の津波復興と昭和戦前という時代——

家・組合・国家——」

本方十根（鹿児島大学）・味園将矢「近代都市計画の技術的基盤——土木技師・梶山浅次郎におけるその体现——」

この記録からは、本書に収めた論考の著者以外にも、多くの研究者にみずからの研究成果を発表いただいたことがわかる。発表はなかったが、研究会に参加し議論に加わっていただいた研究者・大学院生も多い。改めて、この研究会に参加いただいた多くの方々に感謝したい。そこでの多くの議論の積み重ねが、確かに本書の論考の土台になっている。

なお、この一連の研究会の事務的な統括は、二〇一四年度までは平井直樹（現在・清水建設技術研究所）、それ以降は三宅拓也（京都工芸繊維大学助教）が担った。二人の尽力がなければ、この研究会は継続できなかったはずである。

末筆になってしまったが、本書の編集では思文閣出版の田中峰人氏にお世話になった。氏は研究会にできる限り参加いただき、そこでの議論を、雰囲気も含めて把握してもらった。その上での編集作業となっているので、ご苦労も大きかったはずだが、論文集として、とてもまとまりのよいものに仕上がったのではないかと思う。ありがとうございます。

本書の内容は、JSPS科研費・基盤研究（A）「戦前期わが国の都市空間システムに関する歴史的研究」（課題番号二三二四六一〇七）の助成を受けたものです。

二〇一七年二月二八日

中川 理

ふ	
風致地区	12, 13, 29-31, 119, 120, 132, 133, 140-146, 148, 150, 306, 315, 461-470, 473-476, 478-491
風致地区協会	29-31
富平	296, 297, 299, 301, 303, 307, 309-311, 313-315
深江	421
釜山(府)	284, 295, 359, 369, 444, 448
赴戦江水力発電所	369, 371, 372, 378-381, 384, 394, 395
再度山	131, 135, 137, 148
復興地	224-226, 229, 236
へ	
別荘地開発	119, 126
ほ	
防火区画	263, 274
防火帯	262, 263, 274
防空都市計画	274, 356
防空緑地	485
奉天	352
保勝会	30, 31, 499-501, 511, 513
歩兵第七連隊	93, 94, 102
本多家	93, 94
奔茂尻(発電所)	382, 383
ま	
摩耶鋼索鉄道	123
摩耶山	123
丸ノ内(ビジネス街)	13, 14, 24, 157-172, 174-175, 177-187
満洲(国)	108, 183, 281, 282, 286, 371, 382
満洲事変	108, 183, 211, 247, 281
み	
三菱財閥	13, 157-159, 176, 185, 187
港・岩崎(綾里村)	205, 222, 223, 226, 229, 230, 232, 233
箕面有馬電気軌道	404, 405, 412, 413
身延山(関西)別院	416-419, 421, 422

む	
室戸台風	18, 493
め	
明治記念之標	111
明治三陸津波	203
明治神宮内外苑	461, 465
明治神宮風致地区	465, 468, 489
名望家(支配)	16, 31, 54, 101
も	
桃山式	11, 13
や	
ヤミ市	35
よ	
横山家	94, 96, 97
横山町	94
り	
陸軍(省)	11, 89, 91-94, 96, 104-107, 111, 112, 114, 157, 165, 301, 302
陸軍墓地	93, 113, 114
流域変更方式	379-381, 383, 387, 389, 390, 392-395, 397
緑地協議会	29, 30, 462, 482-485
林学	30, 146, 151, 493, 495
臨時資金調整法	282
臨時資金統制法	291
臨時農地等管理令	263, 264, 269, 271, 274
ろ	
六甲越有馬鉄道	124
六甲山	122-124, 126, 129-131, 140, 141, 144, 147, 149
六甲ドライブウェイ	129
わ	
鷺羽山	495, 497-501, 503, 517, 518
和田堀風致地区	462, 480, 481, 487

333, 342, 345, 352, 353, 356, 382, 393, 405,
465, 494
東京市 43, 44, 46, 54, 57, 58, 169-171,
462, 468, 481-483, 485, 488, 489, 491
東京市区改正条例 39, 41
東京市臨時市区改正局 44, 45, 49-55, 59, 60
東京府 42, 43, 461, 462, 465, 468, 470,
472-475, 477, 483, 486, 489, 490
東京府観光協会 489
東京府風致協会聯合(協議)会 462, 487-489
東京緑地計画 483-485, 488, 491, 492
東北地方農山漁村生活改善調査 234
特別市制運動 12
特別都市計画法 17, 465
都市計画講習会 464, 465
都市計画地方委員会 17, 141, 150, 248, 469
都市計画東京地方委員会 461, 462, 467,
469, 478, 480, 483, 485, 489, 491, 492
都市計画兵庫地方委員会 128, 141, 147
(旧)都市計画法 8, 11, 12, 16, 17, 19, 22,
29, 33, 35, 40, 248, 250, 254, 273, 284, 286,
287, 356, 462-465, 468, 476, 479, 485, 488,
494
都市専門官僚制 16, 33, 35, 249
土地区画整理(事業) 17, 19, 21, 22, 141,
147, 249-252, 254-261, 263-266, 268-274,
284, 288-290, 294, 304, 306, 311-316, 350-
352, 356, 424, 462
土地区画整理設計標準 249, 260, 268, 273
土地建物処分規則 52, 54, 55, 57
ドライブウェイ 129, 130, 135, 137, 149, 151
度量衡法 343

な

内務省 12, 16, 17, 27, 41, 109, 126, 141,
163, 181, 206, 207, 223, 225, 226, 248, 249,
254, 259, 268-270, 275, 419, 422, 466, 476,
479, 481-483, 494, 495, 505, 507
名古屋 12, 91, 297, 352, 424
七尾港 102, 107, 108
七尾線 102
浪速土地株式会社 414
なまこ壁 70-72
成田山(大阪)別院
411, 413-416, 418-421, 422

南海鉄道 405

に

日英水力電気株式会社
382, 383, 385, 386, 390, 394, 395
日韓併合 328
日清戦(争) 11, 92, 96, 102, 111, 113
日本製鐵株式会社 252, 264
日本窒素肥料株式会社(日窒)
369, 370, 374-376

ね

ネカクサダム 388, 390

の

農林省 204, 207, 212, 214-216, 222
野方風致地区 480, 481
野花南 382-385
野田山 93, 113
野村兵營 103
野村練兵場 93, 96, 103

は

ハーバー・ボッシュ法 373-375
ハイドロリックフィル式 388, 390
廃仏毀釈 26, 419
函館大火 18
八王子都市計画区域 466-468
八家 92, 94, 98
播州臨海工業地帯 19, 253, 254, 259, 273
阪神大水害 149
阪神電気鉄道 123, 124, 405

ひ

比叡山 405, 415
彦三大火 107
避病院敷地疑獄 101
百間堀 93, 105-107
評価人 57, 58
兵庫県 12, 121, 126, 128-133, 139-143,
145-147, 149, 150, 252-254, 259, 261, 265,
266, 268, 273
兵庫県都市研究会 126, 128-133, 139, 149
広畑(製鉄所) 19, 247, 249-266, 269-275

新興工業都市計画

19, 247-250, 257, 259, 266, 273-275	
神社遙拝所	9
新宿御苑	468
新設計	41, 44, 47, 48, 59, 60
仁川	
280, 286, 295-297, 303, 308, 316, 317, 358	
仁川市街地計画	295, 303, 315
仁川造兵廠	298, 301, 302, 310, 312, 314
仁川府	20, 295, 303, 312, 314, 316
新橋停車場	68, 69, 72, 73
神武天皇聖蹟	506-511
森林公園	130, 132, 149, 150

す

水豊発電所	358
水利組合	341
水理土木	23, 335, 336
水力発電所	24, 25, 331, 369-372, 375-381, 384, 385, 391-395, 397
スーパーリング商会	389, 391
皇都勝景	489
諏訪山線	135

せ

清溪川	346, 357
セセッション	11
全国都市計画会議	328
全国都市問題会議	484, 485, 492
戦災復興	250, 262, 325, 327, 329, 359
戦時体制	
15, 18, 23, 35, 181, 184, 185, 236, 485	
洗足	29, 472, 476, 479, 482, 484, 486
洗足池	471, 474
洗足風致地区	469, 470, 477
善福寺	29, 473, 474, 479, 480, 482, 484
善福寺風致地区	469, 470, 475, 477

そ

ソウル → 京城	
素砂	297, 304, 315, 316

た

大雅堰堤	342
第九師団	

11, 89, 91-93, 96, 105-107, 114, 115

第三五連隊	93, 94
大名庭園	90, 109-111, 493
大林区署	332
高島	502-504, 506-512, 514, 515, 517
宝塚ルナパーク	413
多獅島	306
田代川(発電所)	392-394
建物保護法	169, 171, 177
多摩川風致地区	480, 481, 484
多摩陵	461, 466, 467
多摩陵風致地区	465, 468, 469, 486, 489
ダム式発電	358, 383

ち

チッソ	370, 371
地方債	312
忠魂碑	114, 422
忠霊塔	113
忠霊堂	114
朝鮮河川調査書	334, 335
朝鮮市街地計画令	
287, 295, 298, 300, 327, 348	
朝鮮総督府	23, 29, 214, 280-282, 284-286, 288-290, 294, 295, 299, 300, 302-304, 308, 309, 312, 316, 327, 328, 333-336
朝鮮電気事業令	281
朝鮮電業株式会社	328, 358
朝鮮土地改良株式会社	
23, 328, 335-347, 349	
朝鮮土木研究会	329, 335
町人地	54
貯水池式	381
鎮守府	10, 89, 104, 105, 252

て

帝都復興事業	17, 467
鉄道院	333
鉄道敷設法	102
出羽町練兵場	93, 111
田園都市	248, 302, 481

と

東京	7-9, 12, 14, 28, 29, 39-41, 43, 46, 49, 51, 54, 60, 67, 73, 233, 247, 327, 329,
----	---

兼六公園 110

こ

広域道路 251, 254, 257, 274
公園・緑地 256, 355, 356
攻玉社工学校 333
皇室陵墓令 468, 491
工事の友 329
公設洗濯場 28, 430
興南 369, 370, 376, 378
神戸愛山協会 122, 135, 136, 138, 144
神戸市 12, 119, 121, 122, 126, 128, 130,
131, 133-135, 137-142, 144-150
神戸市会裏山開発委員会 137, 138
神戸市都市計画課 131, 145
香里 404, 413, 415
香里園土地建物株式会社 414
香戸園 413
国際観光政策 120
国鉄片町線 407
国民学校区 250, 274
国立公園 30, 31, 120, 478, 479, 494, 495,
499-506, 508, 512, 514, 517, 518
御後園 493
護国神社 89, 112, 114
金剛山電気 393

さ

サーベイヤー 69, 77
犀川大橋 104
樫島・保村計画 387, 389, 391-393, 395
産業組合 18, 205, 207, 208, 213, 215-218,
221, 228, 229, 233, 235
産業組合拡充運動 212-214, 218
産業組合法 213
産業経済調査会 295, 299
産業道路 257, 259, 273
山地開発
12, 119, 128, 129, 131, 132, 139, 141, 147
山地開発調査委員会 128, 130, 138
産米増殖計画 280
三陸地震 18

し

(東京)市域拡張 462, 468, 482, 483

塩ヶ原 131, 133-135, 138-140, 148
市街地計画委員会 303, 304, 306
市街地建築物法 40, 462
市区改正 3, 4, 7, 8, 22, 28, 33, 39-44,
46, 48-60, 157, 160, 162, 174, 285, 328, 334,
349, 355
市区改正条例 39, 41, 52, 54
四条堰 404, 416, 418
市制特例 12, 42
史蹟 471, 490
史蹟名勝天然紀念物
497, 498, 505, 506, 509, 511, 517
師団 10, 89, 91-94, 96-98, 100, 103-107,
112, 114, 115
失業救済事業 134
自動車専用道路 308, 309, 316
地主 43, 44, 46, 159, 160, 171, 177, 182,
187, 234, 254, 266, 269, 270, 288, 291, 351,
352, 370, 417, 418, 421, 440, 462, 475, 488
篠原家 93
下津井(町) 495, 498
下津井鉄道 499
石神井 29, 472, 474, 475, 479, 482, 484, 485
石神井風致地区 469, 470, 475, 477, 478, 488
借地借家調停法 178, 182
借地法・借家法 171, 178, 182
社宅、・社宅街 13, 14, 263, 264, 269,
271, 361, 369, 371, 384
尺貫法 343
住宅適地造成事業
206-208, 221, 223, 226, 234
重要無形民俗文化財 514, 516
城郭廃棄令 10, 91
城下町 10, 11, 24, 89-94, 102, 106,
109, 114, 115, 273
将軍御成 109, 110
昌慶苑 353
招魂社 89, 111, 112, 114
昭和恐慌 18, 21, 22, 33, 183, 203, 205,
210-223, 233, 280, 285
昭和三陸津波 203, 214, 216, 217, 233, 236
白石踊 515, 516
白石島 502-504, 509, 511-514
新漁村計画 204, 217, 221, 235
新京阪鉄道 405

大阪府社寺課	419
大野港	107
岡山後樂園	493
尾小屋鉾山	96
女子畑発電所	382
陰陽道	409

か

外債	42
開発独裁体制	35, 236
化学肥料	373
加賀藩	91, 96
加賀百万石	115
各部独立採算制	170, 183
鹿児島市	325-327, 329, 361
カザレー法	374, 375
家事労働時間	448
河川工学	335, 336
河川調査	328
家相	405, 410, 411
合葬碑	113, 114
金石築港論	107
金沢港期成同盟会	108
金沢築港	108
金沢飛行場	109
寛永寺	405, 415
官業払下げ	165
漢江	283, 287, 290, 336
漢江水力電気株式会社	23, 297, 358, 359
関西土地株式会社	414
換地	17, 250, 259, 265, 269, 291, 351
関東大震災	181, 461

き

紀元二六〇〇年	506
起債	
20, 135, 259, 283, 300, 307, 312-314, 316	
技術官僚	24, 122, 248, 249, 327, 335
北大阪電鉄	414
吉備高嶋宮	507
鬼門	26, 409, 410-412, 415, 421-424
旧設計	41, 43, 45-48, 60
窮民救済事業	285, 295
京都御所	405
京都市	11, 16, 485

郷土宣揚	502, 506, 512
京都府	11
擬洋風建築	67, 68, 70
共有林	123, 124, 129, 142
漁業(協同)組合	

205, 207, 208, 215-217, 222, 228, 235

漁業法	215
居留地	67-70, 74

吉里吉里(大槌町)	
205, 221, 223, 224, 226, 233, 235	

近隣住区論	250, 263, 274
-------	---------------

く

空襲	186, 325, 353
区長	50, 51, 53, 223
区有林	119, 130, 149
樽坪発電所	383, 385
軍用地	10, 11, 90, 92-94, 96, 102, 301, 303
軍用墓地	89, 112, 113

け

計画標準	248-250, 260, 274, 445
京畿道(官庁)	285, 287, 288, 290, 294,
296-300, 302-304, 306-309, 315	

経済更生運動	
18, 205, 207, 210-214, 216, 217, 233, 234	

京城(ソウル)	19, 279, 283, 284, 286, 287,
289, 293, 296, 308, 327	

京城彙報	329
------	-----

京城市街地計画	287, 289-291, 294
---------	-------------------

京城都市計画書	285, 288
---------	----------

京城都市計画調査書	284
-----------	-----

京城府(官庁)	
---------	--

23, 284, 285, 289-291, 294, 327

京仁	19, 280, 294-297, 299, 306, 312, 316
----	--------------------------------------

京仁市街地計画	
---------	--

299, 302-304, 306, 309, 311, 314, 315

京阪電気鉄道	26, 405, 407
--------	--------------

京阪土地株式会社	414
----------	-----

景福宮	353
-----	-----

軽便鉄道法	403
-------	-----

減価償却	177, 178
------	----------

建設省	329
-----	-----

元老院	41
-----	----

兼六園	111
-----	-----

ま

前島康彦	491
前田慶寧	92, 98, 112
牧野富太郎	489
松本圭一	489, 490

み

水谷駿一	486
ミッチェル、J	389, 391

む

村山智順	449
------	-----

も

森一雄	128, 132, 139, 149
森田一雄	24, 372, 377-387, 391, 393, 395
森村敏己	114

や

矢野恒太	475-478
山縣治郎	129
山口弥一郎	225
山崎幹泰	419
山田安彦	405
山之内靖	22, 35
山本達雄	479
山本正英	470

よ

横山勝太郎	463
横山隆興	98
横山隆平	96, 98, 100, 101
芳川顕正	40
吉田伸之	7
吉田眞夫	479, 481, 489-491

る

ル・コルビュジェ	354
----------	-----

わ

脇水鐵五郎	489, 495, 503, 506, 508
和田蕉因	413
渡辺鉄蔵	478
和田雄治	346

【事 項】

あ

愛郷(運動)	29, 31, 32
浅野川大橋	104
鮑騒動	222

い

井川・梅地計画	388, 389
井川ダム	388, 390
移転料	51, 54, 55, 57-59
井の頭恩賜公園	472, 476
慰霊空間	90, 112, 114
色服着用奨励運動	450, 451, 455, 456

う

宇治川電気株式会社	131
卯辰山	112, 113

え

衛戍病院	93, 94
永登浦	19, 280, 283-287, 289-291, 293, 294, 316
英霊	114
江戸川	474, 482
江戸川風致地区	469, 470, 475, 477, 478, 484, 487
江戸城	405

お

鴨緑江	358, 379-381
大井川	386-388, 391, 392, 395
大泉風致地区	480, 481
大蔵省	41, 91, 110, 177, 181, 205, 207, 208, 217, 223, 229, 307, 312
大阪	12, 25, 110, 126, 139, 352, 404, 405, 407, 408, 410-412, 415, 416, 421, 422
大阪市社会部	408
大阪市商工課	407
大阪鉄道	405
大阪電気軌道	405, 421

し	
柴田畦作	385
白石宗城	376, 377
白幡洋三郎	110
榛葉孝平	306

す	
スカイラー、J・D	387-391
進来要	252
鈴木敬一	476
鈴木辰三	57
鈴木博之	423

せ	
関一	16
千石興太郎	214
千田登文	92

そ	
副島道正	383, 386, 394
ソーファー、D・E	114
孫禎睦	371

た	
高嶋修一	27
高田賢治郎	485
高橋是清	214
高山英華	235
辰野金吾	68
玉置豊次郎	407, 410
田村剛	30, 482, 493, 495, 503
田山花袋	60

つ	
辻原万規彦	371
角田真平	44, 52

と	
土岐銀次郎	469, 470, 477, 479
鳥居龍蔵	489

な	
永井照雄	295
中西敏二	481

中村梅吉	469, 481
------	----------

に	
西川莊三	137, 138
西村輝一	465, 474-476
丹羽鼎三	489

ぬ	
沼尻晃伸	312

ね	
根岸情治	348

の	
野口遼	370, 371, 373-378, 382, 396
野口悠紀夫	35
野間守人	470

は	
ハーヴェイ、D	5
ハウエルズ、J・M	385-388, 390, 391, 395
芳賀源八	225
橋川文三	22
橋爪紳也	413
花房健	142
原田敬一	6

ひ	
東半七郎	491
広瀬貞三	371

ふ	
藤井寛太郎	341
藤井伸三	107
フランク、B	405
ブリジェンス、R・P	9, 10, 67, 69, 72
古市公威	389, 390

ほ	
穂積眞六郎	281
堀和生	370
本多静六	137, 470, 482
本間孝義	334

索引

*本索引は、本文中の人名・事項について重要度の高いものを検索するために作成した。
したがって網羅的な索引とはなっていない。

【人 名】		折下吉延	477, 478
		か	
		河西善兵衛	122, 135, 144
		梶山浅次郎	23, 297, 325
		賀田直治	286, 296, 297, 310
		勝田銀次郎	126, 144
		鎌田正二	371
		川崎卓吉	465
		河原田嫁吉	484
		姜在彦	370
		神部満之助	393
		き	
		北村徳太郎	355
		橋川武郎	376
		く	
		久郷梅松	493, 500, 504
		久保田豊	358, 372, 383, 385
		グループ、A・H	122
		来島良亮	467
		黒板勝美	508
		黒瀬弘志	133
		黒田寿太郎	472
		こ	
		國府種徳	511, 513
		越沢明	328
		小平権一	214
		後藤収蔵	140, 146, 147
		後藤文夫	214
		今和次郎	234
		さ	
		斎藤実	211, 214, 394
		佐野藤次郎	385
あ			
朝倉虎治郎	475, 481		
安達謙蔵	469		
阿部元松	124		
荒川章二	92		
有吉忠一	466		
い			
飯田眞作	417		
飯沼一省	480, 481, 483, 486		
池田宏	463-465		
石川栄耀	350		
石黒忠篤	214		
石黒英彦	209, 214		
石田頼房	35		
伊藤毅	7		
う			
上野英三郎	342		
宇垣一成	280, 282, 285, 286		
鶴久森経峯	509, 513		
内田祥三	274		
梅原末治	510		
お			
大塩武	370		
岡本達明	371		
小川清太	98		
奥中喜代一	145		
小熊英二	32		
奥村栄滋	98		
長克連	98		

丸山 宏(まるやま ひろし)

1951年生。京都大学大学院農学研究科博士後期課程単位修得退学。名城大学農学部教授。農学博士。
『近代日本公園史の研究』(思文閣出版, 1994年), 『近代京都研究』(共編著, 思文閣出版, 2008年), 『一九世紀日本の情報と社会変動』(共著, 京都大学人文科学研究所, 1985年)。

小野 芳朗(おの よしろう)

1957年生。京都大学大学院工学研究科修士課程修了。博士(工学)。京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科教授。

『〈清潔〉の近代——「衛生唱歌」から「抗菌グッズ」へ——』(講談社選書メチエ, 1997年), 『調と都市——能の物語と近代化——』(臨川書店, 2010年), 『水系都市京都——水インフラと都市拡張——』(編著, 思文閣出版, 2015年)。

『竹中工務店建築写真集』(監修・解題, ゆまに書房, 2015年), 『関西のモダニズム建築』(監修・共著, 淡交社, 2014年), 『名都「京城」の夢——「京城市街地計画」の植民地的特質に関する考察——』(『人文学報』[京都大学人文科学研究所] 104号, 2013年).

金 珠 也(きむ じゅや)

1969年生. 京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科博士後期課程修了. 博士(学術). 嶺南大学校建築学部非常勤講師.

「大邱中区近代建築物リノベーション事業の現況と課題」(『建築と都市空間』20号, 2015年), 「大邱都心部空間構造の変化過程に関する研究」(『住居環境』16号, 2011年), 「日帝強占期京城府土地地区画整理事業における都市植民性の研究」(『大韓建築学会論文集』25巻4号, 2009年).

木 方 十 根(きかた じゅんね)

1968年生. 東京藝術大学大学院美術研究科建築理論専攻修士課程修了. 名古屋大学大学院環境学研究科学位取得. 博士(工学). 鹿児島大学学術研究院理工学域工学系建築学専攻教授.

『図説 長崎の教会堂——風景のなかの建築——』(共編著, 河出書房新社, 2016年), 『「大学町」出現——近代都市計画の錬金術——』(河出書房新社, 2010年), 『社宅街——企業が育んだ住宅地——』(共編著, 学芸出版社, 2009年).

味 園 将 矢(みその まさや)

1985年生. 鹿児島大学大学院理工学研究科建築学専攻博士前期課程修了. 株式会社バガハウス勤務.

『土木技師・梶山浅次郎の業績と鹿児島市戦災復興都市計画』(鹿児島大学大学院理工学研究科修士論文(日本建築学会2011年優秀修士論文賞), 2011年), 『土木技師・梶山浅次郎の経歴と業績: 鹿児島市戦災復興都市計画研究』(共同執筆, 日本建築学会研究報告・九州支部(計画系), 第50号, 2011年).

谷 川 竜 一(たにがわ りゅういち)

1976年生. 東京大学大学院工学系研究科博士課程中退(建築学専攻). 金沢大学新学術創成研究機構助教. 博士(工学).

『灯台から考える海の近代』(京都大学出版会, 2016年), 「43.75°の近代——旧朝鮮総督府庁舎からみる建築設計の歴史的可能性——」(谷川竜一ほか編『衝突と変奏のジャスティス』青弓社, 2016年), 「往古への首都建築——平壤の朝鮮式建物——」(貴志俊彦ほか編『記憶と忘却のアジア』青弓社, 2015年).

砂 本 文 彦(すなもと ふみひこ)

1972年生. 豊橋技術科学大学大学院工学研究科修士課程修了. 博士(工学). 神戸女子大学家政学部教授. 『図説 ソウルの歴史 漢城・京城・ソウル 都市と建築の六〇〇年』(河出書房新社, 2009年), 『軍港都市史研究Ⅲ 呉編』(河西英通編, 清文堂出版, 2014年), 「明水台住宅地解説」(共著, 『大京城府大観』ソウル歴史博物館, 2015年).

野村正晴(のむら まさはる)

1979年生。東京芸術大学大学院美術研究科博士後期課程修了。博士(美術)。関西大学環境都市工学部建築学科助教。

「三越日本橋本店本館の建築計画の変化と収益性——三越日本橋本店本館の増改築の変遷 その1——」(『日本建築学会計画系論文集』81(728), 2016年), 『三越日本橋本店本館報告書』(共編著, 三越伊勢丹ホールディングス, 2015年), 「丸ノ内オフィス街の街区形成過程にみる開発手法の展開——三菱財閥と丸ノ内地区開発 その4——」(『日本建築学会計画系論文集』79(698), 2014年)。

青井哲人(あおい あきひと)

1970年生。京都大学大学院工学研究科建築学専攻博士課程中退。博士(工学)。明治大学理工学部准教授。『明治神宮以前・以後——近代神社をめぐる環境形成の構造転換——』(共編, 鹿島出版会, 2015年2月), 『彰化一九〇六年——市区改正が都市を動かす——』(アセテート, 2006年9月), 『植民地神社と帝国日本』(吉川弘文館, 2005年2月)。

岡村健太郎(おかむら けんたろう)

1981年生。東京大学大学院工学系研究科建築学専攻博士課程修了。博士(工学)。東京大学生産技術研究所助教。

『「三陸津波」と集落再編——ポスト近代復興に向けて——』(鹿島出版会, 2017年2月), 「ミライの復興地——昭和三陸津波後の復興地と東日本大震災——」(貴志俊彦ほか編『記憶と忘却のアジア』青弓社, 2015年3月), 「昭和三陸津波後の岩手県大槌町吉里吉里集落の復興に関する研究——農山漁村経済更生運動と復興計画の関連——」(『日本建築学会計画系論文集』79巻698号, 2014年4月)。

石樽督和(いしぐれ まさかず)

1986年生。明治大学大学院理工学研究科建築学専攻博士後期課程修了。博士(工学)。東京理科大学工学部助教。

『戦後東京と闇市』(鹿島出版会, 2016年), 『盛り場はヤミ市から生まれた・増補版』(共著, 青弓社, 2016年)。

中野茂夫(なかの しげお)

1973年生。筑波大学大学院博士一貫課程社会工学研究科修了。博士(都市・地域計画)。鳥根大学大学院総合理工学研究科教授。

『企業城下町の都市計画』(筑波大学出版会, 2009年), 『北京の四合院』(共著, 中央公論美術出版, 2008年)。

石田潤一郎(いしだ じゅんいちろう)

1952年生。京都大学大学院工学研究科博士後期課程研究指導認定退学。工学博士。京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科教授。

執筆者紹介(収録順)

中 川 理(なかがわ おさむ)

1955年生。京都大学大学院工学研究科建築学専攻博士後期課程修了。工学博士。京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科教授。

『重税都市——もうひとつの郊外住宅史——』(住まいの図書館出版局, 1990年), 『風景学——風景と景観をめぐる歴史と現在』(共立出版, 2008年), 『京都と近代——せめぎあう都市空間の歴史——』(鹿島出版会, 2015年)。

松 山 恵(まつやま めぐみ)

1975年生。東京大学大学院工学系研究科建築学専攻博士後期課程単位修得退学。博士(工学)。明治大学文学部史学地理学科日本史学専攻准教授。

『江戸・東京の都市史——近代移行期の都市・建築・社会——』(東京大学出版会, 2014年), 『明治神宮以前・以後——近代神社をめぐる環境形成の構造転換——』(共著, 鹿島出版会, 2015年), 「日本近代都市史研究のあゆみ」(『都市史研究』2号, 2015年11月)。

大 田 省 一(おおた しょういち)

1966年生。東京大学大学院工学系研究科博士課程単位取得退学。博士(工学)。京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科准教授。

『建築のハノイ——ベトナムに誕生したパリ——』(白揚社, 2006年), 『東京大学東洋文化研究所蔵清朝建築図様図録』(共編著, 山愛書院, 2005年)。

本 康 宏 史(もとやす ひろし)

1957年生。金沢大学大学院社会環境研究科学位取得。博士(文学)。金沢星稜大学経済学部教授。

『石川県の歴史』(共著, 山川出版社, 2000年), 『軍都の慰霊空間——国民統合と戦死者たち——』(吉川弘文館, 2002年), 『からくり師大野弁吉の時代——技術文化と地域社会——』(岩田書院, 2007年)。

山 口 敬 太(やまぐち けいた)

1980年生。京都大学大学院工学研究科博士後期課程修了。博士(工学)。京都大学大学院工学研究科助教。

『日本風景史』(共編著, 昭和堂, 2015年), 「近代大津の「遊覧都市」建設と都市計画——湖岸埋立と湖岸逍遙道路整備を中心に——」(共著, 『土木学会論文集』D2, Vol. 71, 2015年), 「神戸市河川沿緑地の形成とその構想の起源——古宇田實の水害復興構想とその戦災復興への影響——」(共著, 『都市計画論文集』Vol. 49, No. 1, 2014年)。